

京都教育大学 F D ニュース

No.72

2014 年 12 月 5 日

京都教育大学 FD 委員会

平成 26 年度第 1 回 FD 研修会について

今年度第 1 回目の FD 研修会「『学生は学部授業アンケートをどう見るか』中間アンケート、授業アンケート実施結果報告会」が 9 月 29 日に開催されました。今回の研修会では FD 委員会委員が以下の内容を報告しました。

- (1) 「授業中間アンケート実施状況調査を受けて」 巻本委員
- (2) 「平成 25 年度後期学部授業アンケート結果について」 大竹委員
- (3) 「アンケート結果を学生はどうか」 藪根委員



(1) は平成 25 年度後期から実施をお願いしている「授業中間アンケート」について、先生方のご意見をいただいた実施状況調査を分析した結果を報告したものです。(2) は前回の FD ニュースでお伝えした平成 25 年度後期に実施した「授業アンケート」の分析結果の報告、(3) はその結果を学生に示し、学生に自由に意見・感想を伝えてもらい、そこから学生はどのようにアンケート結果を受け止めているかを分析し報告したものです。この学生サイドの視点から授業アンケートを捉えることは、今回初めて行ったもので、研修会終了後の参加者アンケートでも高く評価していただきました。

以下に、前回の FD ニュースに掲載した (2) を除いて、報告内容を掲載します。

1. 「授業中間アンケート実施状況調査を受けて」 報告者 巻本委員

授業中間アンケート実施の目的は、

- ・リアルタイムに授業に関する要望等を把握し、その後の授業改善に役立てる
- ・フィードバックにより、学習意欲の向上をはかる

ことにあります。平成 26 年度前期の「授業中間アンケート」に関してお尋ねした実施状況調査は、昨年度後期の調査結果と比較して、次のようになりました。

問 1. 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施しましたか

	2013 年後期	2014 年前期
はい	30 (56.6%)	51 (62.2%)
いいえ	23 (43.4%)	29 (35.4%)
無回答	--	2 (2.4%)
計	53	82

問2 授業中間アンケートをしなかった主な理由についてお聞かせ下さい。

- ・毎回ミニレポートを書かせて、受講者の理解度を確認するとともに、授業についての感想を書いてもらっている。
- ・毎回の授業の終わりに感想用紙を配布
- ・アンケートを行う時間が取れなかったため
- ・時期を逸してしまった。
- ・中間アンケートの実施を知らなかった。
- ・中間アンケートの必要性を感じない。期末だけで十分
- ・アンケートに代えて習熟度をはかる小テストを実施しているため



最初の二つの回答は実質的にアンケートを取っていただいていると受け取れます。残りの回答については、まだまだ中間アンケートに関する周知が足りないようでした。

問3. 使用した様式について

	2013年後期	2014年前期
FD委員会の様式	24 (80.0%)	43 (84.3%)
独自の様式	6 (20.0%)	8 (15.7%)
計	30	51

問4. 中間でのアンケートを実施することについて

	2013年後期	2014年前期
意義があった	9 (29.0%)	25 (48.1%)
どちらかという意義があった	17 (54.8%)	21 (40.4%)
どちらかという意義がなかった	3 (9.7%)	3 (5.8%)
意義がなかった	0 (0.0%)	1 (1.9%)
無回答	2 (6.5%)	1 (1.9%)
評価できない	--	1 (1.9%)
計	31	52

アンケートを実施数も増えており、その内のほぼ9割の先生方から意義があったと評価されています。今回実施されなかった先生方も、アンケートは短い時間で実施することができますので、次回にはぜひ実施いただきたいと思います。

問5 授業中間アンケートの結果を受けて、授業内容・方法を変えた点があれば具体的にお聞かせください。

- ・受講生の様子を見て、質問がないか尋ね、補足説明を詳しく加えるよう心がけました。
- ・板書を丁寧に書くようになった。
- ・自宅学習の道筋をつけた。
- ・少し説明をゆっくりした。
- ・教材の追加、課題指示の工夫など

- ・板書をより整理して書くようにした。
- ・内容の難度を少し低くした。
- ・授業のはじめに前回の復習と今回の流れを予め説明した後に授業の本論に入るように授業のやり方を改めた。

問6．学生へのフィードバックの方法について（複数回答あり）

	2013 年後期	2014 年前期
口頭	18 (52.9%)	31 (56.4%)
文書	2 (5.9%)	1 (1.8%)
Web	0 (0.0%)	0 (0.0%)
特別なフィードバックはしていない	8 (23.5%)	15 (27.3%)
その他（具体的に）	4 (11.8%)	7 (12.7%)
無回答	2 (5.9%)	1 (1.8%)
計	34	55

学生へのフィードバックは口頭でという先生方が半数強ありました。特別なフィードバックをしていないという先生方が4分の1ほどいられますが、アンケートを読んだということが学生に伝わるように簡単な一言でも結構ですので授業中に発言いただけると、学生の側も親近感が湧き授業への興味が増すと思われますのでよろしくお願いします。

問7 FD委員会様式の「授業中間アンケート」の設問について

（現状のままでよい）

- ・オーソドックスな講義スタイルでしたらよいと存じます。後期（今学期）の科目は、受講生主体のスタイル、授業のほとんどを受講生によるプレゼンテーションで進めましたので「独自の様式」で尋ねました。
- ・学生からの感想（授業のすすめ方についての）も書く欄があり励みになる記述も多かった。

（改善の余地有り）

- ・授業の性格によって、実施時間や設問は変えた方がよかったということで問4は意義の有無が授業で異なりました。
- ・設問によって5件法と4件法を組み合わせるべきではないでしょうか。
- ・時期（実施するタイミング）が中間アンケートをとるのに必ずしも有効でないと思われる。
- ・講義内容に知的好奇心が満足させられたかどうか興味が高まったかどうかに関する設問がない。
- ・授業方法（講義式・対話式・パワーポイントの使用等）についての感想や要望を問う項目も必要かと思われる。
- ・授業の性格によっては、独自に考えた方がよいと思いました。

実技系の講義であるとか、オムニバスで担当しているとか、講義の形態によってはFD委員会様式の設問では適さないということがあることは理解しています。その際は、独自様式のアンケートをしていただくか、学生に指示を与えてFD委員会様式の自由記述欄を活用していただければと思います。

2. 「アンケート結果を学生はどう捉えたか」 報告者 藪根委員

調査の背景

本学では、FD活動の一環として授業アンケートを実施しています。結果は担当教員にフィードバックされ、個々の教員のFD活動に役立てられています。また、教員に対しては、FD研修会やFDニュースによって全体の集計結果や分析結果が報告されています。

アンケートの集計結果については毎年大きな変化はありませんが、昨年度後期の集計結果を見ると、「約7割の受講生がアンケート結果を全く閲覧していない」という実態が明らかになりました。しかも、この割合は前年度よりもさらに約5%増加していたのです。

この数字は、「FD活動に対する学生の無関心」を現しているといえるでしょう。今回の調査において、学生から「FDとは何ですか？」という質問もありました。

FD活動とは「大学教育の質的な向上」などを目的とした活動であり、教員の授業力向上を狙った研修会等が活動の柱になることは間違いありません。

ただし、本来授業の質は教員と受講生の気の交流によって高められていくものであり、教員サイドの努力のみでその向上を目指すことは難しいことです。

以上の背景から、FD委員会では、学生諸君にFD活動に対する関心を高めてもらうため、「学生を中心にしたFD研修会」の実施について検討してみました。しかし、人数等の問題もあり、有効な方法を見出すことは出来ませんでした。

そこで、今回は学生をFD活動に取り込むための第一歩として、昨年度後期の授業アンケートの集計結果を彼らに見てもらい、結果についての感想、意見を問うことにしました。

1. 調査方法

47名の学生（体育領域専攻3回生14名、英語領域専攻2回生以上17名、英語領域専攻1回生1名、数学領域専攻3回生以上11名、数学領域専攻2回生2名、国語領域専攻3回生1名、教育学専攻3回生1名）に対して、平成25年度後期授業アンケートの集計結果を見せ、感想、意見、要望を記述してもらった。

尚、記述の内容には個々の学生の意見と、小グループでまとめた意見が含まれています。話し合いや記述作業に教員は一切関わっていません。

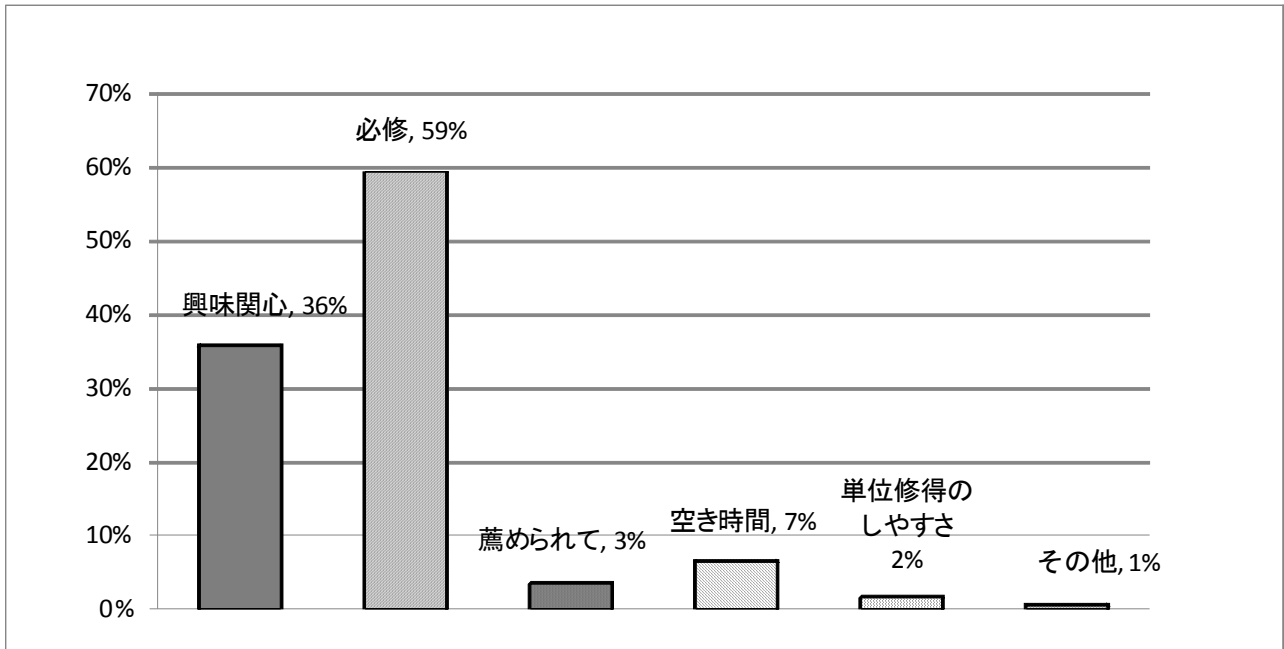
2. 分析方法

すべての回答をまず感想・意見と要望に分類し、さらに各回答を分析し、内容が共通する記述をまとめてグループ化しました。以下で、学生からの回答の冒頭が「・」ではなく、「◎」が付いているものは、それと同種の意見が多数あったことを示しています。



3. 分析結果

■ Q 1 受講動機（複数選択可）の結果の棒グラフを見て



学生の感想、意見

★「必修だから」が多いことについて

◎ カリキュラム上、当然の結果

◎ 回答者に1回生、二回生が多いから

- ・ 学生の意思で選択するのを束縛しているのではないか
- ・ 必修が多く、選択のしようがない

・ 他大学ではヒマになる三、四回が実習、ゼミ、採用試験と忙しすぎて、自ら興味のある分野にのぞむ余裕がない

★「興味関心」が36%あることについて

◎ 多いと感じる＝真面目で、学習意欲が高い学生が多い。

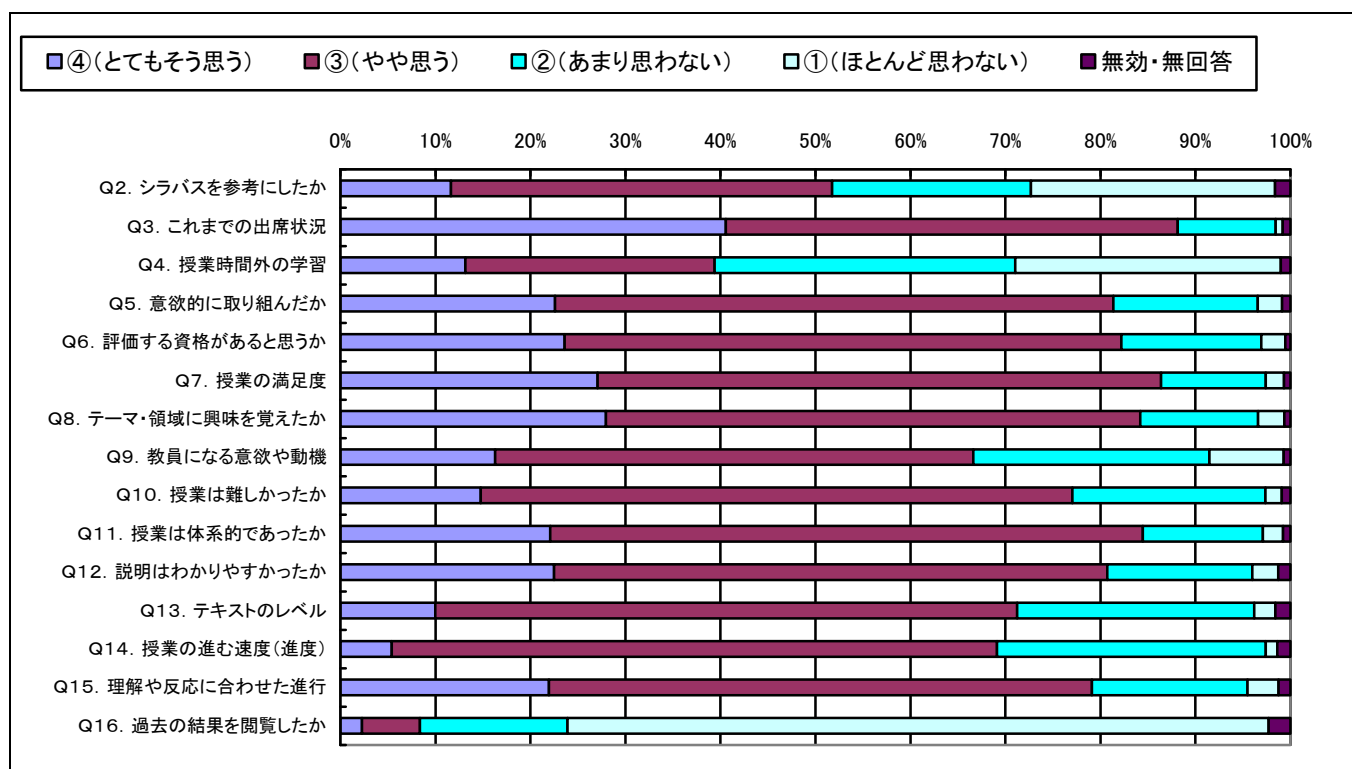
◎ 少ないと感じる＝学習意欲が高い学生が少ない。

- ・ 興味や関心から受講した人の割合が多くなるほど、授業の雰囲気は良くなっていく、学生が興味関心を持って受講できるように大学が環境をつくるべき
- ・ 「その他」の1%の理由が気になる。

学生からの要望

- ・ シラバスを読んで興味・関心を持ち選択するが、シラバスの内容の変更がなされておらず、全く異なる講義内容が行われることもある。受講生の学習意欲を失わせないためにも、配慮をお願いしたい。

■ Q 2 ～ Q 1 6 全体回答の帯グラフ



感想、意見

★シラバスを参考にしている者が5割強であることについて

- ・ うそでしょう
- ・ ほとんど参考にしていない（とくに2回生までは）
- ・ インターネットでみるようになって、面倒であまりみなくなった

★出席状況がよいことについて

◎ 必修が多いから

- ・ 評価できる
- ・ 単位を習得するために出席する人が多く、出席を取らない授業では出席する人がとても少ない

★授業時間外の学習が少ないことについて

- ・ 授業で聞いた知識が 身につかないのではないかな

◎ 毎時間ごとに課題を課される授業が少ないから。もっと課題などを出したら授業時間以外での学習時間が増える

◎ テスト前にまとめて学習をする人が多いから

- ・ もっと少ないのではないかな

★意欲的に取り組んだ者が多いことについて

- ・ 良い傾向
- ・ 出席＝意欲的と考えている人が多いことも事実
- ・ 「ちょっといいかっこう」している感じがする

★授業の満足度が高いことについて

- ・ 良い傾向
- ・ 学生の力によって、満足するかしなないかは分かれる
- ・ 満足度の割には教員になる意欲が高まっていないことから、教員はより実践的な場を設ける必要があるのではないかな

★テーマ・領域に興味を覚えた者が多いことについて

- ・ うそっぽい気がする
- ・ 「やや思う」が思ったより多い気がする

★教員になる意欲や動機の変化についての質問について

- ・ 毎年、この質問の意味がわからない

★授業が難しかったと感じた者が多いことについて

- ・ 講義の説明はわかりやすく感じており、問題はない
- ・ 教員が分かりにくい授業をしている場合もあるが、※おおむね学生の努力が不足しているのではないか
- ・ 実際は、そんなに難かしいとは思っていない。そのような回答が多いのは、難しくなってはこまるという気持ちからであろう

★授業は体系的であったと答える者が多いことについて

- ・ むずかしい質問である

★説明が分かりやすかったと感じた者が多いことについて

- ・ 良い傾向、さすが
- ・ 「やや思う」が多すぎるような気がするが、「ちょうど良い」がなければそうなる

★授業の進度が速いと感じた者が多いことについて

- ・ 板書や説明が多かったり、早かったりして充実はしているが単なる作業になっている可能性があるのではないか
- ・ 教師はその傾向を知り、何らかの措置をとっているのか疑問に思う

★結果を閲覧しない者が多いことについて

- ・ その存在自体を知らず閲覧できなかったのだと思う

◎ どうやって見るのかわからないのではないか

- ・ アンケート結果のページがあまり目立っておらず、気付いていない人もいるのではないか
- ・ アンケートが直接単位の取得と結びつかないと考える者が多いからではないか
- ・ 教員も閲覧していないと考えられる過去のアンケートを受講生が閲覧する意味はあるのか
- ・ 過去の結果を知っても意味がない
- ・ 今後改善することで授業の充実度につながると考えられる

【アンケート全体に対して】

★肯定的な意見が多いことについて

- ・ 先生に気を使っている
- ・ 真面目で優しい学生が多いからではないか。
- ・ 学生が気を使いたくなるような、良い先生が多いからではないか。

【アンケートの形式に関して】

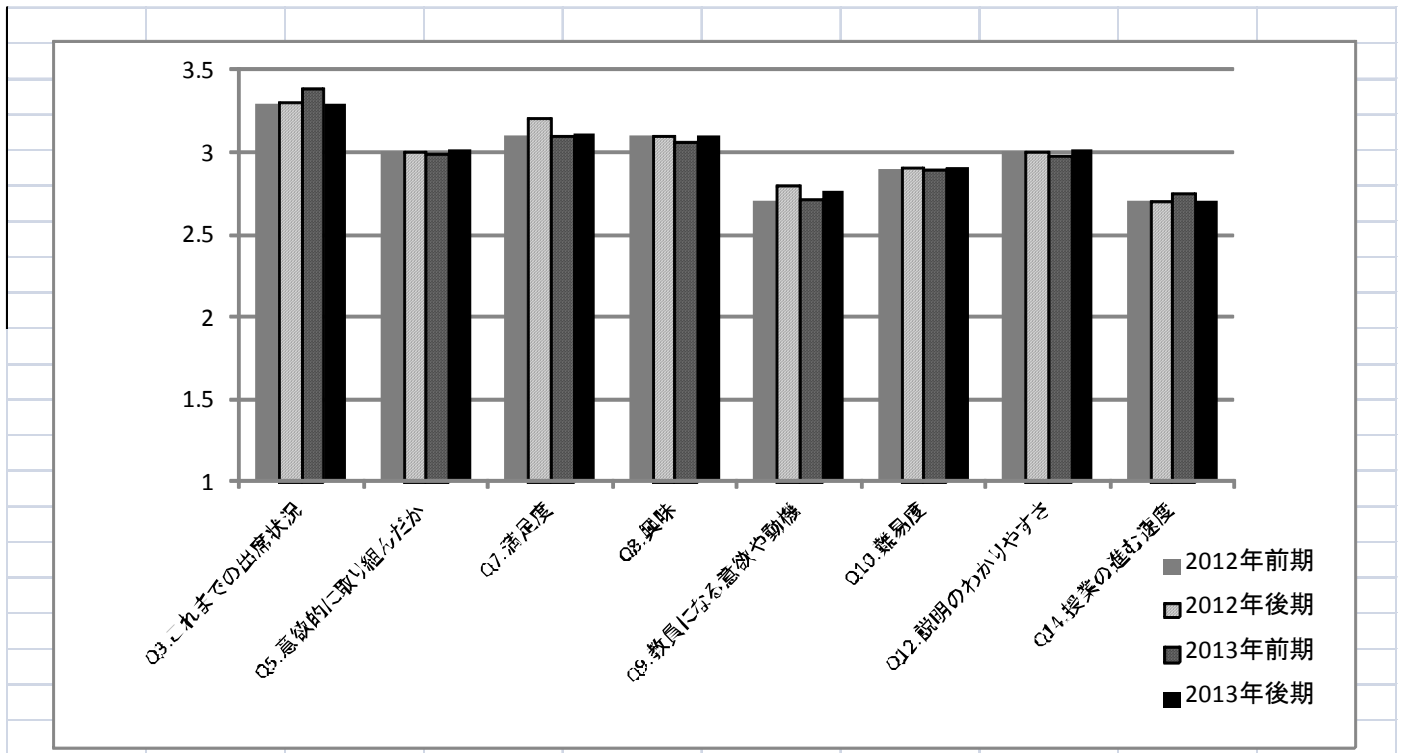
★「やや思う」という回答が非常に多いことについて

◎ 一番答えやすく、偏っているのではないか

◎ 中間の回答があってもいいのではないか

- ・ 適当にマークしているのではないか

(2) 過年度と同一項目の平均値の比較



感想、意見

★出席状況で1,2回の欠席が9割であることについて

- ・素晴らしいことだと思うが、信憑性に欠ける

★過去と比較してもあまり変化は見られないことについて

◎ 本学の学生の傾向として捉えて良いのではないかと

◎ アンケートが活かされていないように思う

- ・これ以上よくなることはないのかと疑問に思う
- ・アンケートを雑に回答しているのではないかと
- ・差がないのは4択に問題があるのではないかと

★「教員になる意欲や動機」が他の項目より評価が低いことについて

◎ 教員養成学校なら全体に比べ高くあるべきではないかと

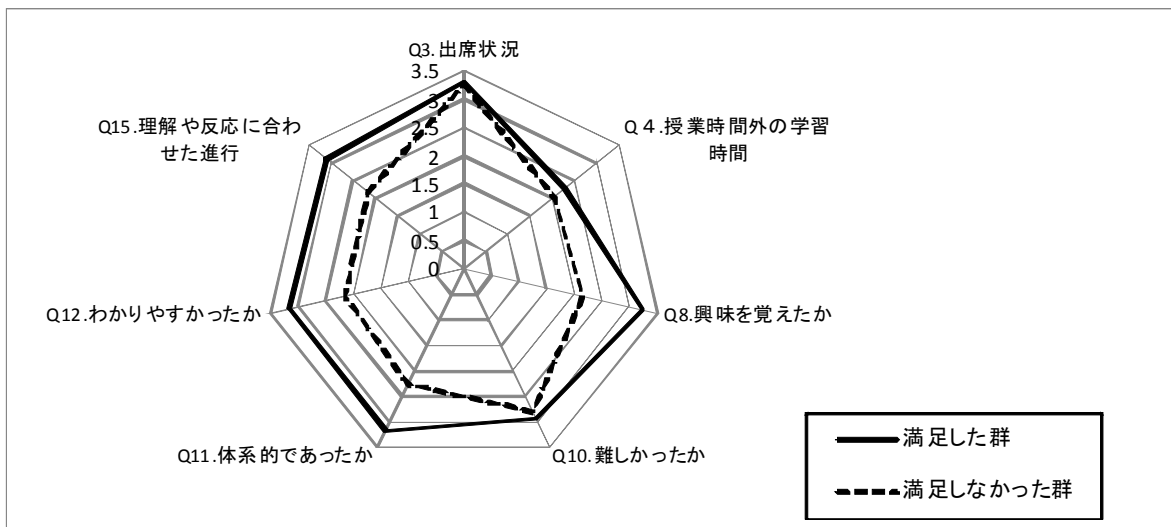
- ・改善するべきだと思う
- ・仕方ない＝色々な分野の勉強をするだけで、教育現場に携わるための勉強ができていないから
- ・教員になろうと考えている人ばかりとは限らないから
- ・教員に対する意欲が下がっているからではないかと
- ・教員の力不足が要因の一つであると考えられる

要望

★過去と比較してもあまり変化は見られないことについて

- ・受講生個人の授業に対する意欲も必要であるが、学生に興味・関心与える工夫をしてほしい

(3) 「満足した群」と「満足しなかった群」の違い



感想、意見

【満足した群の傾向について】

- ・ 満足した群はグラフのどの項目も割合が高くなっているのはいいと思う
- ・ 受講生は満足度を授業内容よりも教員の態度や授業方法で判断している傾向があるので、もっと授業内容にも意識を向けるべきである

★授業の難しさと満足度の関係について

【満足した群に関して】

- ◎ 難しいから満足しないということではないことが分かる。難しくても授業担当者が、積極的に学生と交流しようとしたり、理解しているかを確認しながら進めていけば、満足したと答える人は増えるだろう。
- ・ 「わかりやすかったか」という項目で満足した人が多いのは、教師の「理解や反応に合わせた進行」と関連していると感じる
- ・ その授業が難しかった優しかったかはあまり関係はなく、満足の度合いはその授業への興味が決めていることが分かる
- ・ 満足した群の方が難しいと感じている。難しい方が満足するんだなと思った。簡単だと満足しないのだろうなと思った。

★授業の難しさと満足度の関係について

【満足しなかった群に関して】

- ◎ 満足しなかった群では、難易度があげられており、難しさが興味関心が湧かなかつたり、わかりにくいと回答する人が多くなる原因であると考えられる。授業の展開の仕方に教員側がもっと工夫をしていくべきだと思う。
- ・ 興味を引く授業や、学生の授業に対する充実感を向上させるような講義にしていくことで、満足したと回答するものは増えてくるのではないかと。
- ・ 難しい、理解しにくい授業が教員への意欲低下に直接的につながっていると考えられる。難しくても、受講生の理解や反応に応じた授業を展開すべきである。

★満足しなかった群の出席が良いことについて

- ・ この学校の学生が真面目であるのが伺える
 - ・ 出席状況が良くなってきたことに関しては、良い傾向。これを続けていけば良いと思う
 - ・ 満足度に関わらず出席しているが、理解度という観点からみると差が生じているに違いない。学生が講義内容の難易度に関わらず、面白いと感じ興味を持てるような講義にできるかが今後の課題である
- ◎ 満足した群と「出席状況」が同じなのは驚き。満足していないのに出席はしている。必修だから？

★授業時間外の学習時間が少ないことについて

- ・ 授業時間外の学習時間を増やす工夫が必要である
 - ・ 課題の出し方が悪いのではないか
- ◎ 自分の興味のない学習を授業以外の時間を割いてでもするのかと考えれば、当然の結果である。またその逆で、自分の興味のあることは時間を割いても学習しようとするのではないのか
- ・ 満足した群と満足しなかった群の「授業時間外の学習の時間」が同じことに驚き。どっちかがウソをついている？

この調査に加えて、武道コーチングゼミ3回生6名を対象にして、「おもしろい授業」、「おもしろくない授業」、「やる気が出る授業」、「やる気がなくなる授業」とはどんな授業かと質問してみました。

【学生の回答】

「おもしろい授業とは？」

- ・ 内容に興味がある 例 専門性が深まるような内容

「おもしろくない授業とは？」

- ・ 先生がひたすらしゃべる (しかし) 内容に興味があればおもしろいと感じる
- ・ 内容が広く浅い

「やる気が出る授業とは？」

- ・ 今、必要な内容 例 指導案の作成の仕方等

「やる気がなくなる授業とは？」

- ・ 今、必要がない内容

以上の結果から、学生の学習意欲向上には「**興味のある内容**」がキーワードとなることが分かります。

その他、この話し合いの中で出た意見に、次の二つがありました。

- ① 教員になろうという意欲が高まる授業が少ない。
- ② 教員になろうと思っていたが、授業を受ける内、やめようかと思いつく。

①、②の考えを持つようになる学生は、「部活の指導がしたい」というような動機で教員を目指した学生であり、教員の仕事について深く知識を持たなかった学生のようにです。大学で授業を受けていくことで教員に対する知識が深まり、「大変そうなのでやめておこうか」となる。そうなると、教員養成課程の授業は興味なく、卒業単位の習得のみが目標となる。授業に満足しない学生は、このような学生なのかもしれません。

体育領域専攻1回生39名に、基礎ゼミの最後の授業で卒業後の進路について次の質問をしてみました。

- ① 必ず教員になる
- ② 教員以外の選択肢もある
- ③ 教員にはならない

その結果、③の回答はなかったが、②の回答がすでに8名ありました。このような傾向は他の領域でもあるのではないのでしょうか。これら「不満足予備軍」を「満足サイド」に持って行くためには、一、二回生の早い段階から「教員という仕事の素晴らしさ、おもしろさ」等を伝える内容の授業が必要ではないかと思います。

まとめ

1. 学生諸君に授業アンケートの集計結果を見せ、それについて考えてもらうという今回の試みによって、全体傾向についての気づきや、学習の取り組み方に対する課題意識を引き出すことができました。学生をFD活動に取り込むためには、まず活動に関心を持ってもらうことが大切なので、そのための試みとしては意義のある調査であったといえます。
2. 調査結果から浮き彫りになったキーワードは、授業の内容に「興味を持てるか」ということでした。また、「真面目であるが学習に対して受け身で、単位取得が主目的となっている」という学生像もまた浮き彫りになりました。

授業に興味を持たせることは容易ではありませんが、「役立つ内容であればやる気が出る」という意見を参考にするならば、授業のオリエンテーションにおいて、「授業の内容が領域全体の中でどのような位置を占め、どのように役立つのか」、体育領域で例えるならば、「この授業が体育指導においてどのような位置を占め、どのように役立つのか」を明示することが、1つの方策として挙げられるでしょう。

+++++

- 平成26年度第2回FD研修会を開催します。
研修テーマ 「授業力を向上する！ その2」
一学内情報機器の活用方法にこたえます！！
日時 12月17日（水）13：30～14：20
場所 附属図書館2階 研修セミナー室
是非ご参加ください

- 平成26年度後期授業中間アンケート実施結果調査
締め切り：平成26年12月22日（月）
提出先：教員連絡室と1号館講師控室に設置した回収ボックス
ご協力をお願いします

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：安東（委員長），藪根（副委員長），巻本，二枝，大竹
事務担当：高松，相原

平成26年度第2回FD研修会

授業力を向上する！その2

— 学内情報機器の活用方法にこたえます！！ —

今回の研修会は、昨年度第2回FD研修会の続編となるもので、学内環境の活用法について、先生方の授業力向上に役立つトピック2つを厳選して準備いたしました。電子黒板、並びにOHCとタブレットの活用法です。是非、ご参加の程をお願い申し上げます。

日時：平成26年12月17日（水）13:30～14:20（教授会前）

場所：附属図書館2階 研修セミナー室1

講師：連合教職実践研究科 浅井 和行 教授

「『大きく見せる』ことから始める手軽なICTの活用
— 簡単で便利な電子黒板に焦点を当てて—」

- 1, 教育の情報化
- 2, これまでの取組
- 3, 「教科指導におけるICTの活用」の具体例
- 4, 「メディア・コミュニケーション科」（研究開発学校）の取組

理学科 卷本 彰一 准教授（FD委員）

「プレゼンテーションどうするの？

OHC（書画カメラ）、タブレットの面白い使い方は？」

（講演順）

是非ご参加下さい

